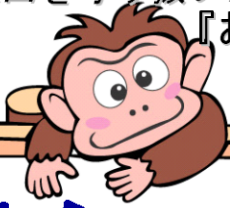


千枚田を守り抜いた、偉大なる先人たちへの鎮魂の灯火  
『お田植え感謝の夕べ』



# みんなで灯ろう 千枚田

いつ **平成23年6月4日(土)午後7時から**  
(雨天の時は、**6月5日(日)午後7時から**)

どこで **四谷の千枚田**

だれが **参加していただける方(参加自由)**

なにを **希望者で、千枚田の沿道を「ロウソク」で灯します。**  
(ライター等の点火道具をご持参ください。)

「ロウソク」で灯された千枚田を鑑賞しながら有意義なひとときを過ごしましょう。

お願い **駐車場がありません。できる限り「トコトコ」徒歩で。**  
それと、**飲酒運転は絶対しない様に！**

**当日は、東日本大震災義援金箱を設けます。**  
**善意のご協力を！**



## 頑張ろう日本

こども陣太鼓も出演！

# 連谷お助け隊

協力：愛知県ふるさと指導員



当日は、連谷小学校の親子で作った「案山子」も参加。また、自作のロウソクも灯される。横浜ゴム新城工場も自社製のロウソクで参加。毎年、ハートマークでお馴染みの地元芸術家の百姓「柳ちゃ」もいろいろ趣向を凝らしているようだ。会場では五平餅、焼肉など盛り沢山の屋台がでる。  
(銭も忘れないように)  
また、恒例となった「こども陣太鼓」の演奏や棚田の川西さんの仲間、バンドグループによる弾き語りなどの出演協力もある、この弾き語りのなかで、サミットテーマソング「棚田へ行こう」の作詞作曲者である宮崎県シングアウトキッズ代表の鈴木康子先生に楽譜、DVDをお願いしたところ、快い協力があり、当日、会場で子供も大人も合唱できればと心を躍らせている。

四谷の

千枚田だより



第93号

今回で六回になる「お田植え感謝祭」千枚田を守りぬいた、偉大なる先人たちへの鎮魂の灯火も、連谷お助け隊定番行事として根付いた。この、行事のそもそもの発端は平成十七年、第十一回全国棚田サミットが当地で開催。サミットに参加する全国の棚田関係者に厳かな雰囲気醸成の目的であったが、調整不可でボツになってしまった。サミット成功を願い発足したサミットお助け隊も、サミット成功の黒子として活躍。その、功績は後々の語り草として全国に知れ渡った。その、バイタリティを消すことなく、「連谷お助け隊」と名を改め、地域の活性、発展に無くては成らない存在として活動している。

### 連谷小学校の代かき

五月二日、全校児童五名は、三枚の田んぼの代かきを行った。子供達は、泥んこになりながら足踏みでの代かきの作業をCBCラジオ「レインボーカー」の容姿端麗なレポーターが学校田からテンポよく実況放送を行った。昼食は恒例の「棚田っ娘」のおばさんの作った「五平餅」を顔じゅう味噌だらけになつて頬張った。田植えは十八日に行う。



### 田植え

□新城高校農業クラブは今年も千枚田で田植えから収穫までの体験学習を実施する。五月七日、バスで到着した同校農業クラブの生徒達(二十名)にタニシやヤマアカガエル

など、生物多様性に富んだ四谷の千枚田を小山舜二が案内。同校の先輩であり棚田の若き後継者でもある原田史樹君(横浜ゴム新社員)と父親の英史(ふるさと指導員)親子の指導で田植えが行われた。



□豊橋調理製菓専門学校は、今年も「四谷の千枚田」で食育学習を実施する。五月十一日、生徒達(五十一名)は小雨の降る中、二年生を中心に三枚の田んぼの田植えの実体験を行った。

午後は身平橋の集会場で田んぼの生きものや自然、厳しい棚田の保全などを織り込んだ学習をパワーポイントで小山舜二から学んだ。

□五月十四日、JA愛知東こども農学校に参加した六十六名の子供たちは保存会顧問の高橋庄一の指導で田植えを行った。

□行政が仲立ちで行われていた「三河の山里ツーリズム」の稲作体験も一昨年で終了。この企画に参加した都市住民親子四グループ(渡辺代表)は癒し、潤いの魅力にとりつかれ、棚田支援グループとして継続、今年も五月十五日、田植えを行う。

### □県農林水産部生物多様性研修

本研修は、食と緑の基本計画二〇一五に掲げられた取組みである「多様な生物を育み、緑豊かな景観を持つ農村の環境「里地・里山・里海における県民参加型の環境保全活動」を推進し、もつて生物多様性の保全を初めとした多面的機能の恩恵を実感できる社会の形成を図るため、農林水産部職員が生物多様性の保全に係わる実践的知識及び技術等を習得することを目的に実施する。五月十八日、田植え、翌十九日には田んぼの生きもの調査など、小山舜二(ふるさと指導員)の指導で行われる。

### 奥三河再発見ツアー

豊橋鉄道は、ラッピングバスで「奥三河再発見ツアー」を行っている。五月十五日、千枚田の田植えの真つ最中の棚田を見学、急傾斜の棚

田の維持、保全管理の厳しさを知ってもらうことを目的に案内を行う。

### 環境整備

五月二十一日、保存会は「あいち森と緑づくり事業」を活用して連合地区の生活路(市道)滝上く(与良木)の環境整備活動を方瀬集落住民、連谷お助け隊、保存会で実施する。

なお、この活動に賛同する、地域住民のより多くの参加、協力をお願いします。

### 千年の杜植樹祭参加

五月二十一日、横浜ゴム新城工場は第三期新城工場植樹祭を開催。四谷の千枚田と横浜ゴムは新入社員研修がきっかけで、環境にやさしく育てた稲藁をドングリなど、広葉樹の育苗や幼木の敷き藁として活用、幼木は工場の敷地はもとより海老の東泉里山プロジェクト等々に配布、二酸化炭素の削減に貢献するなど「棚田と企業」の佳い雰囲気の流れを図っている。当日は希望者を募って参加を予定。

### 保存会総会

五月十四日、鞍掛山麓千枚田保存会の総会が開かれた。(次号詳細)

行 平成二十三年五月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文責 小山舜二